

青山地区 旧町名由来板

赤坂青山北町

古くは、一丁目～五丁目辺りは原宿村、六丁目辺りは上渋谷村の田野でしたが、天正18年(1590年)、徳川家康の開東入国の後、一帯は青山奥成の屋敷地として与えられ、青山という地名の起こりとなります。江戸時代には種山藩青山家の地、龍野藩松坂家、広島藩浅野家、一屋藩田村家、柳本藩磯田家などの大名や商人・組頭へ大蔵地(百人町)をはじめとする幕臣の屋敷地、善光寺や海蔵寺、高徳寺などの寺社がありました。明治5年(1872年)、これらを合併して青山北町一丁目～六丁目となりました。

明治19年(1886年)、一丁目～三丁目の裏手一帯が陸軍青山練兵場となり、同24年、一丁目に陸軍大学校、同33年に青山師範学校が移転。また、大正7年(1918年)には三丁目に女子学留院が転入しています。

青山練兵場の敷地は、明治41年(1908年)に大博覧会敷地に認定されましたが(博覧会は大正2年無期延期)、大正2年(1913年)、明治神宮の社地に選ばれ、同15年、神宮外苑として竣工。六丁目より明治神宮へと向う表参道が設置されました。

戦後は、青山通りを中心にビル化が進み、赤坂・六本木と並び評される先端的な繁華街へと発展を遂げ、一丁目の陸軍大学校は、区立青山中学校と都営アパート、三丁目の女子学留院は、親父宮ラグビー場など、五丁目の青山師範学校跡が都営住宅に整備されました。

Akasaka, Aoyama, Kitamachi

In old times, this area was farmland. After Tokugawa Ieyasu immigrated into Kanto in 1590, he granted this tract of land to Aoyama Tadanari as his estate. This is where the name Aoyama originates.

In the Edo era, the Aoyama area became the estate of feudal lords (daimyo) such as the Aoyama family of the Sasayama domain and their retainers. They also established shrines in the area.

In 1913, the Japanese Army's Aoyama parade ground, which had been established in 1886, was selected as the site for the Meiji Shrine. The shrine and its surrounding grounds were completed in 1926, with Omotesando established as the approach to the Meiji Shrine.

After the World War II, a building boom centered around Aoyama-dori led to its development as an edgy and entertainment district that earned the similar reputation as Akasaka and Roppongi.

